

- 営業時間／9:00～17:00 (受付16:30まで)
- 休 館 日／水曜日(祝日の場合、翌日)  
※但し、夏期期間中(8月1日～31日)及び、年末年始(12/29～1/3)は営業
- 駐 車 場／普通車10台(無料)
- アクセス／JR越後湯沢駅 西口より徒歩で約7分  
関越自動車道 湯沢I.Cより車で約5分

● 観覧料

|    | 個人   | 団体<br>(15名以上) |
|----|------|---------------|
| 大人 | 500円 | 400円          |
| 子供 | 250円 | 200円          |



湯沢町は新潟県の南端、群馬県との県境にある、温泉と観光、スキーの町。古くから湯治場として知られ、三国街道の宿場町として発展しました。現在、町内にはJR東日本の上越線・上越新幹線、関越自動車道、国道17号線が通っています。東京から新幹線の所要時間は約1時間10分です。



# 川上四郎が描く四季の童画

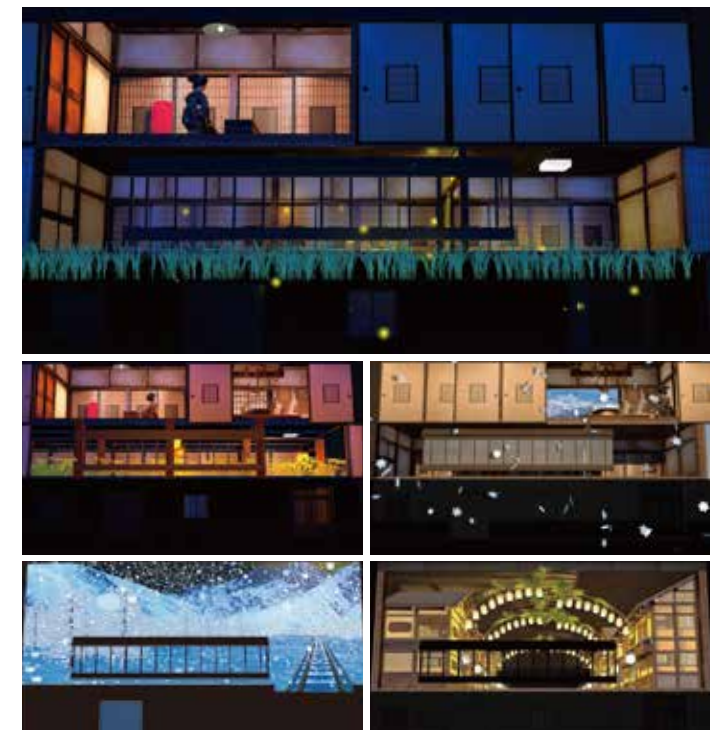
「日本童画の父」といわれる川上は、50代半ばでの疎開から94才で永眠するまで、家族と湯沢で暮らしました。川上によると、童画とは「童心画の意」であり、「児童画には必ず童心を主体としたもの」とのことです。川上が描く童画の中には、素朴で美しい日本の原風景が描かれています。(展示は復彩画になります。)



●川上四郎プロフィール  
1889年、新潟県古志郡上組村撰田屋(現長岡市撰田屋)に生まれる。1916年、コドモ社入社。挿画執筆を始める。1920年、コドモ社創刊の雑誌「童話」にて、そのほとんどの表紙画・挿画を担当。1927年、第1次日本童画家協会結成に参加。1942年、第2回野間挿画奨励賞受賞。1945年、湯沢に疎開。1983年、逝去。

# プロジェクションマッピング projection mapping

実物(リアル)と映像をシンクロさせる映像手法、プロジェクションマッピング。日が暮れてから駐車場側壁面に動画が映し出されます。



YUZAWA Snow Country Museum

Yukiguni-kan

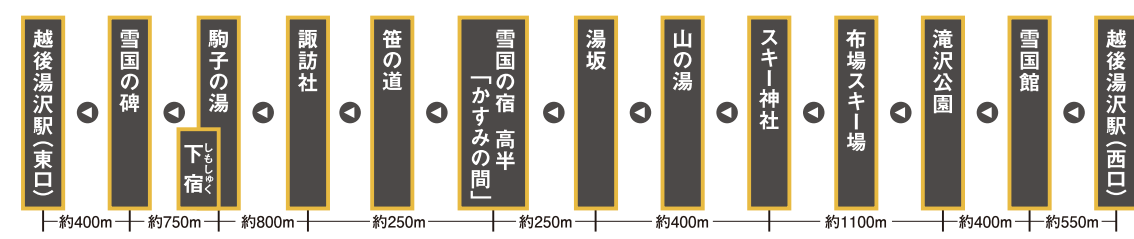
## 雪国館

湯沢町歴史民俗資料館

バリアフリー化の  
どなたにもご利用しやすい  
人に優しい施設です。



駐車場側から入口へのスロープ エレベーター 多目的トイレ(車椅子対応) 授乳室



## 湯沢町歴史民俗資料館「雪国館」

〒949-6101 新潟県南魚沼郡湯沢町大字湯沢354番地1  
TEL.025-784-3965 FAX.025-775-7550  
<https://www.e-yuzawa.gr.jp/yukigunikan/>



2階 駒子の部屋

駒子のモデルといわれる芸者、松栄が昭和初期に住んだ部屋の部を移築再現。



雪国の住生活コーナー

古民家のイロリ等を移築再現したコーナーで、生活用品を中心に展示。写真撮影に人気のスポットです。



1階 『雪国』日本画ギャラリー

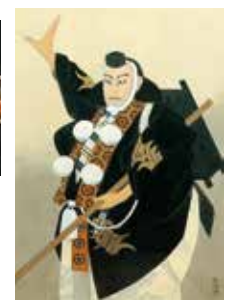
小説『雪国』がテーマの日本画14点。



「雪国」牧進  
トンネルを抜けた雪国の、夜の底にひっそりある集落。モノクロのようだが、わずかに青や茶などが加色されている。



「雪国の月」高山辰雄  
(文化勲章受章者)  
高山作品を貫くものは宇宙観である。生きとし生けるものへの優しい眼差しが、その作品には存在している。



「勸進帳(辨慶)」大山忠作  
(文化勲章受章者)  
歌舞伎十八番「勸進帳」の弁慶を描いた作品。小説の中に、駒子が勸進帳を三味線で弾き、島村が鳥肌立ちそうに感動する場面がある。



筆跡 川端康成筆  
(町指定文化財)

国境の長いトンネルを抜けると雪国であつた夜の夜が白くあつた  
雪国より 川端康成

小説『雪国』ゆかりのものや雪国・湯沢の暮らしと歴史について、様々な展示で雪国の世界をご覧下さい。



- エレベーター
- トイレ(男)
- トイレ(女)
- 授乳室
- 撮影はできません ※灰色部分は立入りできません



●川端康成プロフィール  
1899年、大阪市北区此花町に生まれる。横光利一らと『文藝時代』を創刊し、新感覚派の代表的な作家として活躍。1968年にノーベル文学賞を日本初で受賞するも、その四年後にあたる1972年に自らの生涯に幕を閉じた。代表作『雪国』『伊豆の踊子』『古都』の他、著書多数。



ティファニーの旅行用目覚まし時計  
控え目なベルの音が上品。よく使い込まれているのが分かる。



中国の盃と台  
下戸のため、湯のみ代わりに玉露を入れて愛用していた。



湯飲み茶碗  
接客用に使用していた。



薩摩上布の着物  
沖縄県宮古島で織られた今では幻のもの。



大島紬の着物と羽織  
常用していた着物と羽織。

1階 川端康成の遺愛品  
生前愛用していた貴重な品々を展示。

3階



四季の民俗コーナー



春 田植えの春



夏 養蚕(ようさん)の夏



秋 収穫の秋



冬 雪中で生活する冬



湯沢の歴史コーナー  
全国2位の出土量の古銭や、日々の暮らしの心得を記した「高札」など、湯沢の歴史を様々な角度からご覧下さい。